

舌打ちが伝えるメッセージ

—映像データの観察を通して—

萩原 孝恵 (山梨県立大学)

EAJS 2021

27 August 2021

日本人は舌打ちに敏感である。しかし、世界には日本人の知らない、日本語に存在しない舌打ちの用法がある。

本研究が非言語に注目する理由

一つ一つの非言語情報が発信する意味は、あらゆる文化に共通であるよりも、文化固有のものであることの方が、はるかに多い。しかも文化によって多様な意味を持つのである。…(中略)…。異文化コミュニケーションを考えると、言語によるコミュニケーションと同じように、**非言語によるコミュニケーションの重要性と、誤解の可能性とその危険性を心にとめておかなければならない。**(村野2001:152)

タイ人132名のOPIデータ

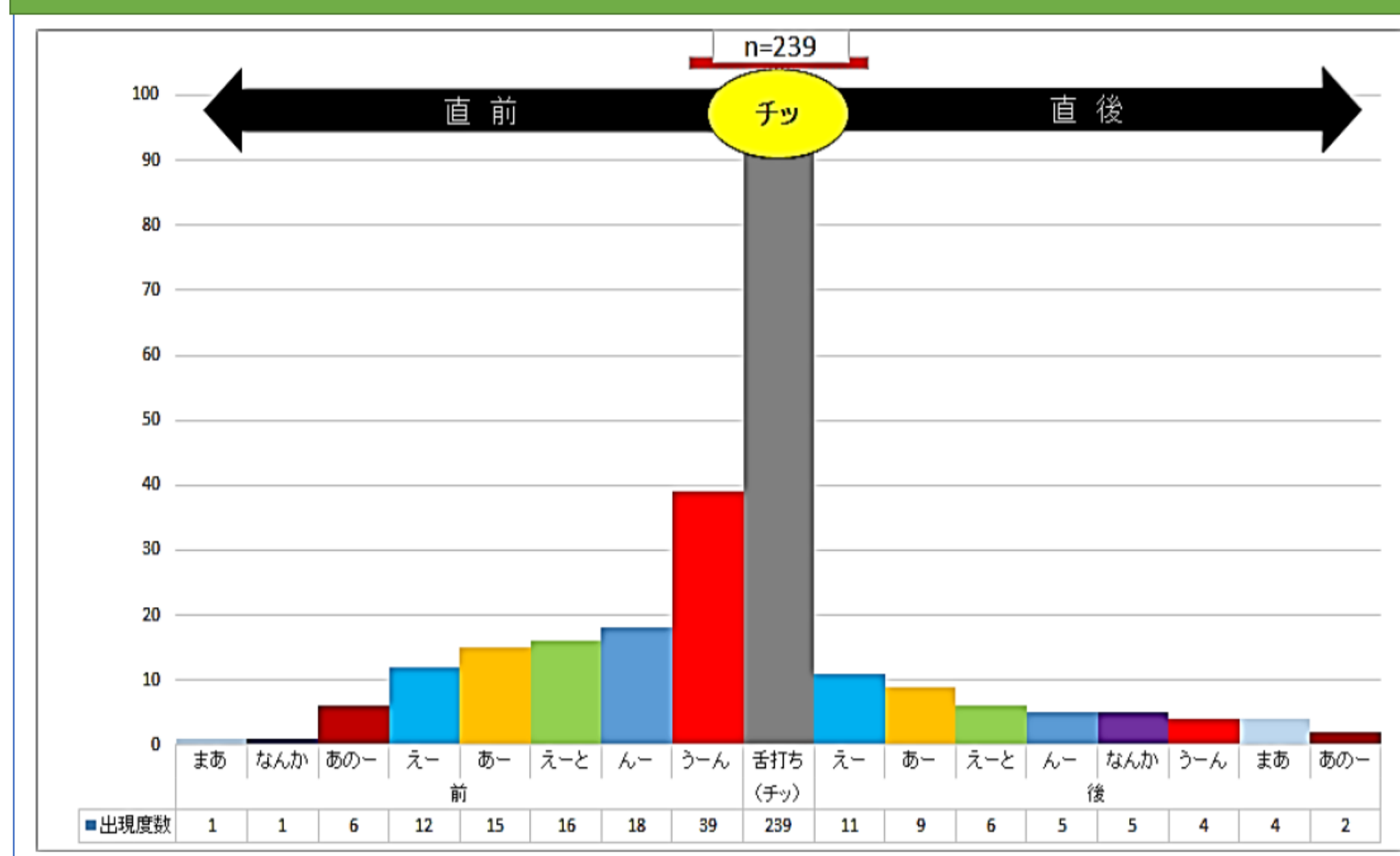


タイ人日本語学習者話し言葉コーパス(CTJC)

現在閲覧できません

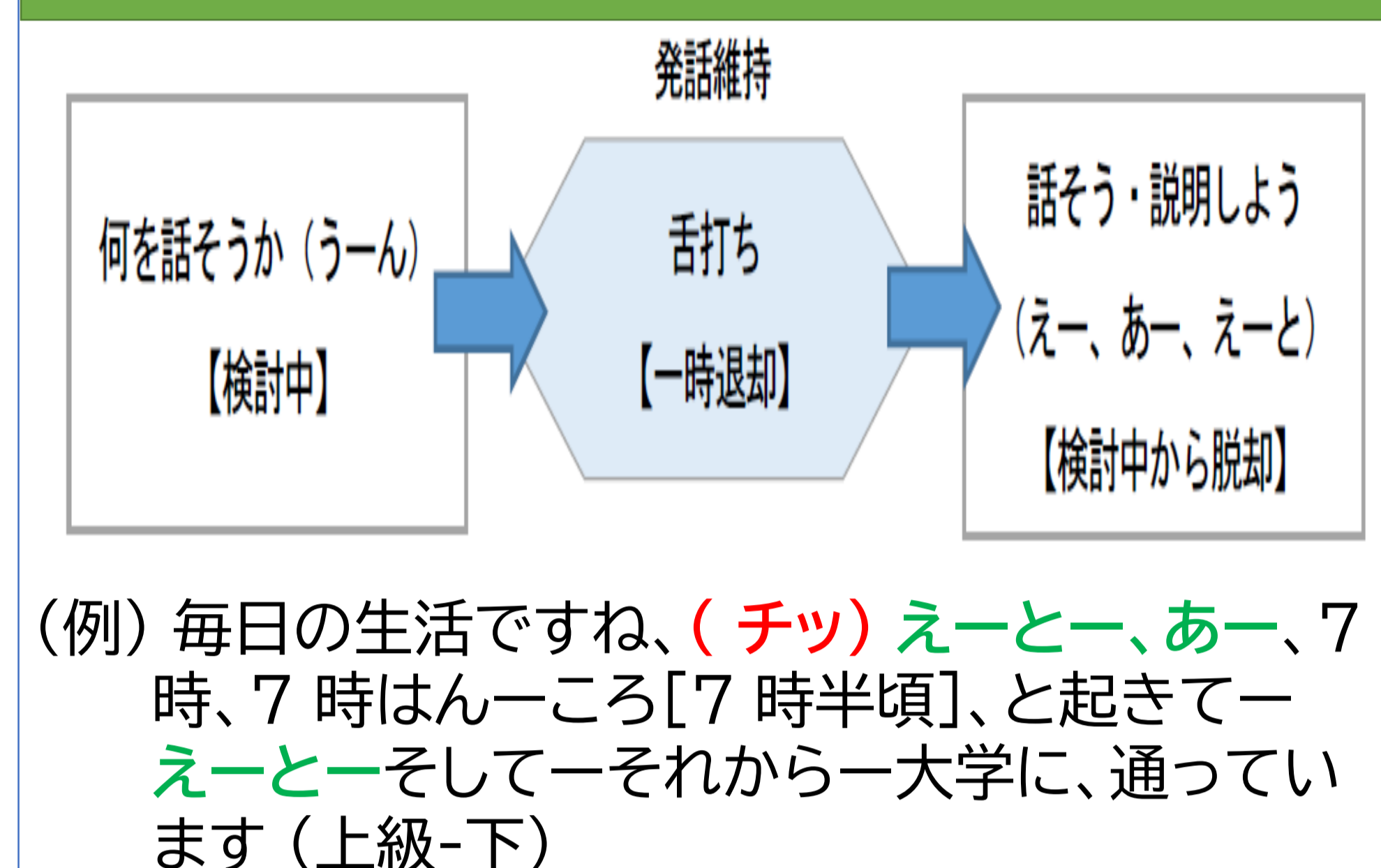
2012~2014現地収集、2018公開

30分のOPIで舌打ちが239



萩原・池谷(2017:98)

フィラー的、認知行動の現れ



萩原・池谷(2017:99)

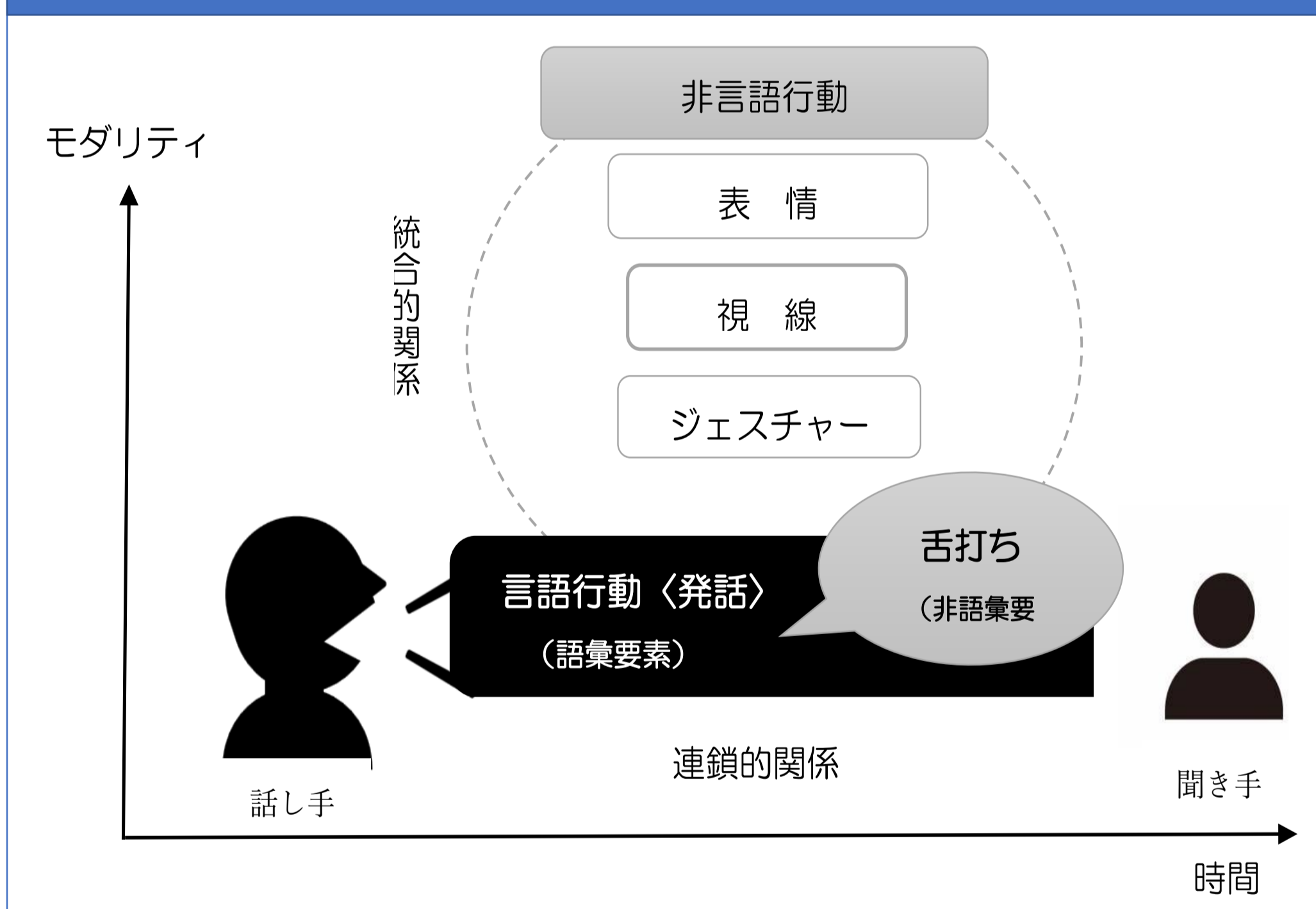
映像データで舌打ちを観察する意義

- 高梨(2016:62)は、**非言語行動は「言語的な発話と補完し合うことによって統合的な役割を果たす」と指摘**
- 舌打ちのような非言語要素は、書き起こしの段階で聞き流されたり、価値のないものと判断される可能性
- 舌打ちは、言語によってはコミュニケーション・スタイル・を理解するうえで重要な資料となり得る

例)森田(2015)は、フランス人の舌打ちの用法について、コミュニケーションを続けたいというポジティブなもの
Trouvain & Malisz(2016)は、スピーチに出現する舌打ちについて、沈黙やフィラー以上の情報、ためらい

→映像ではない

映像データの分析方法



映像データの記述

高梨(2016:62)「インタラクションにおける連鎖的反応と統合的關係」を応用

萩原・池谷(2015、2016、2017)

- 舌打ちは言語行動に付随して現れる
- 舌打ちは感動詞に近い機能を有する

記述例 (萩原・池谷2020:80)

表情	考えている様子
視線	前方、少し上向き
ジェスチャー	左手の人差し指で右手の手のひらを指し、数えるようなしぐさ
発話	ナーラーイ王、えー 舌打ち 仏歴何年かなあー?

映像データの概要

三者会話、5組、各組約50分の会話
課題遂行型タスク(1.タイ語、2.日本語、3.日本語)

グループ	データ名	タスク	言語	会話時間
1	161104G1_task1_thai	1	タイ語	16.55
1	161104G1_task2-japanese	2	日本語	20.17
1	161104G1_task3-japanese	3	日本語	10.33
2	161104G2_task1_thai	1	タイ語	21.09
2	161104G2_task2-japanese	2	日本語	20.27
2	161104G2_task3-japanese	3	日本語	11.01
3	161107G3_task1_thai	1	タイ語	22.31
3	161107G3_task2-japanese	2	日本語	19.33
3	161107G3_task3-japanese	3	日本語	8.52
4	161107G4_task1_thai	1	タイ語	19.16
4	161107G4_task2-japanese	2	日本語	31.01
4	161107G4_task3-japanese	3	日本語	4.02
5	161107G5_task1_thai	1	タイ語	19.27
5	161107G5_task2-japanese	2	日本語	20.23
5	161107G5_task3-japanese	3	日本語	10.39

日本語に存在しない舌打ちの用法

1)認知行動系、2)感情表出系、3)発話調整系

*ネガティブな舌打ちは35例中1例のみ

1)認知行動系(考えている)

表情	思い出せない様子で笑っている
視線	下方(机)を見る
ジェスチャー	両肘をつき頭を抱える
発話	A:ポ、ボランティア(B:アライワ)じゃなくて(B:アライワ、B:舌打ち)っていう

2)感情表出系(いいね！)

表情	満足げな様子
視線	交互に見ている
ジェスチャー	両手は机の上に置いている
発話	C:心優しい人ですね A:舌打ち A:まあね

3)発話調整系(応答型・展開型)

表情	
視線	Aを見る
ジェスチャー	両手を動かしながら
発話	B:えっとーいろいろ、ね? B:舌打ち B:み、見る人は、なんか

【参考文献】

[1]高梨克也(2016)『基礎から分かる会話コミュニケーション分析法』ナカニシヤ出版、[2]萩原孝恵・池谷清美(2015)「発話にみられる非言語要素の再検討—タイ人の舌打ちに注目して」『第10回OPI国際シンポジウム予稿論集』34-37、[3]萩原・池谷清美(2016)「集中的に舌打ちを発したタイ人日本語学習者の発話に関する一考察」『日本語プロフィシエンシー研究』4:5-20、[4]萩原孝恵・池谷清美(2017)「フィラーとの共起にみる舌打ちと笑い—タイ人日本語学習者の発話を表象する非言語行動の特徴」『2017年第11回OPI国際シンポジウム台湾大会』96-103、[5]萩原孝恵・池谷清美(2020)「タイ人の舌打ち—マルチモーダルインタラクションにおけるその意味」『山梨県立大学国際政策学部紀要』15:75-86、[6]森田美里(2015)「フランス人には聞こえない舌打ち音—日仏対照言語学的観点から」『フランス語フランス文学研究』106:159-174、[7]村野良子(2001)「第5章 世界の行動表現と非言語伝達」飛田良文編『日本語行動論』151-188、おうふう、[8]Trouvain, J. & Malisz, Z.(2016) Inter-speech Clicks in an Interspeech Keynote. *INTERSPEECH 2016*, 1397-1401.